無料 地盤調査サービス

地盤ネットホールディングス JIBANNET JPX 東証上場

「地盤カルテ」とは？？

住所等を入力するだけで、 全国どこでも
- ●改良工事率
- ●浸水リスク
- ●地震による揺れやすさ
- ●土砂災害危険リスク
- ●液状化リスク

の5項目の地盤・災害リスクの指標についてまとめたレポートを無料で提供するサービスです。
ハザードマップ等ではわかりにくい地盤・災害リスク情報について、 各項目のスコアおよび合計スコアをわかりやすく点数化して表示していますので、 専門的な知識がなくとも土地のリスク情報の概要を把握することができます。

あなたの土地は何点？
お住まいの地盤について知りたくありませんか？
地盤ネットで地盤カルテを無料で作成いたします。

地盤ネットとは…？
地盤ネットグループは、「地盤カルテ」や「地盤安心マップ」など地震などの災害から人々を守るための消費者向けサービスを展開、 誰でも分かりやすい地盤情報を無料で提供しています。
地盤専門会社にしか知り得ない地盤情報の“見える化”を実行、 生活者と専門家の情報格差を埋める役割を担う「住生活エージェント」として、 公正中立な立場から、 常識にとらわれないビジネスモデルを掲げ続けています。

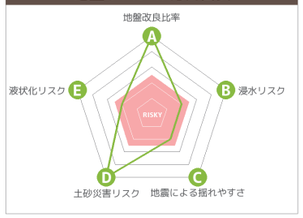
見本

地盤カルテ
地盤ネット簡易レポート

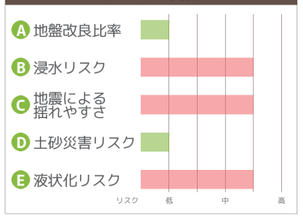
55/100
SAFETY SCORE※1

141,000円／m²
近隣の公示地価※2

地盤リスクの総合目安



リスクの目安



住所	愛知県稲沢市 周辺
地形※4	人工地形/盛土地・埋立地
地質※5	約1万8000年前～現在までに形成された最も新しい時代の地層
対象地の用途地域※6	商業地域
公示地点までの距離※7	161m
標高※3	5m
公示地点の標準地番号※7	稲沢5-001
公示地点の用途地域※7	商業,準防

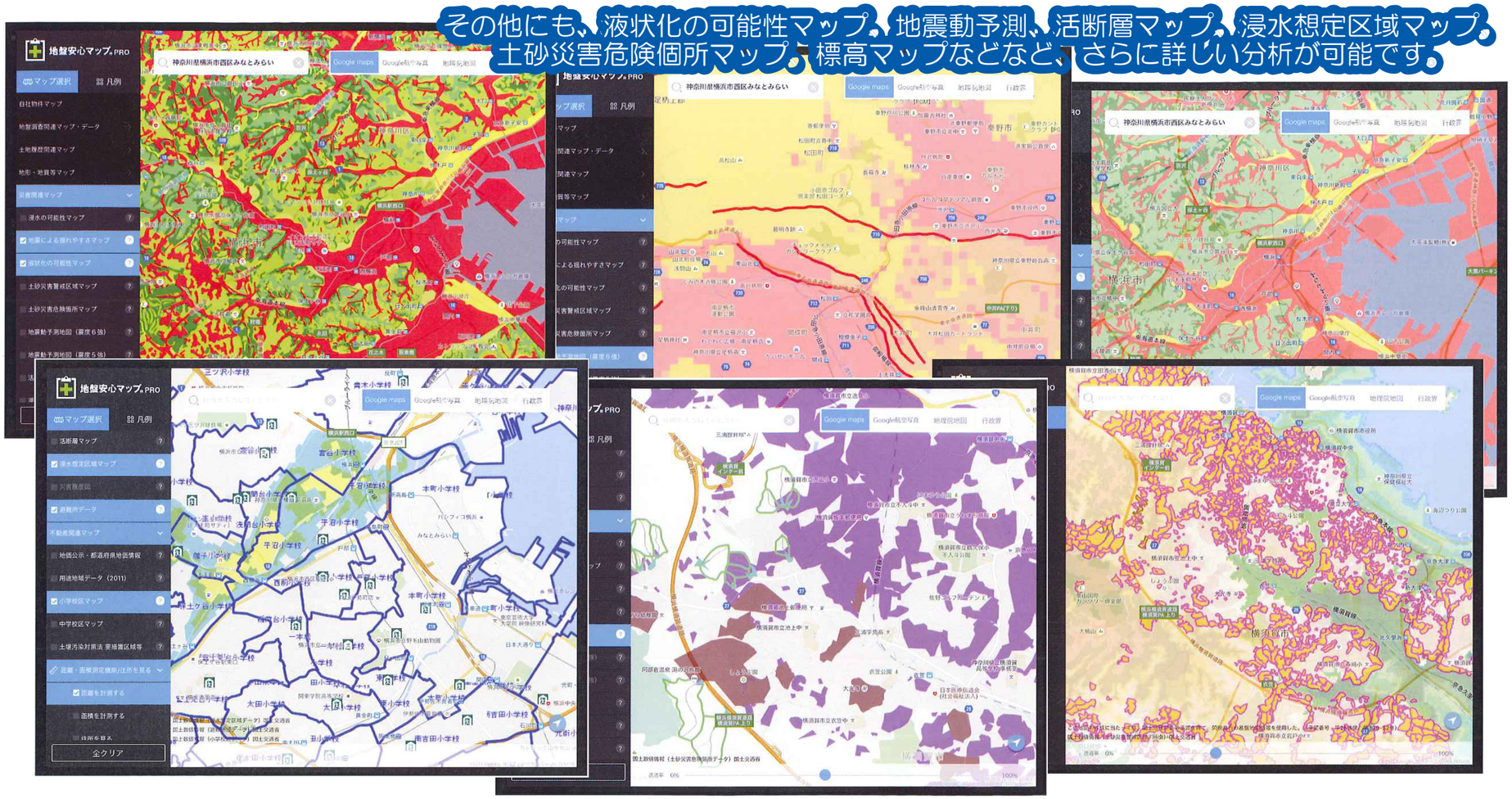
※1 スコア数値は各種地盤情報を基にして独自に算出したもので、地盤リスクの目安を示すものです。下記のチャートで地盤災害リスクの傾向を確認し、建築や防災の参考にすることも為れます。 ※2 近隣の公示地価とは、国土交通省の地価公示・都道府県地価調査により、近隣（1km以内でクリップした地点から近い公示地点のもので、工業専用地を除く）の公示価格を、参考情報として掲載したものです。実際の地価は、用途地域や容積率などに影響しますので、近隣地価が参考情報にすぎることを掲載します。 ※3 国土地理院・地理院標高データ(10mメッシュ)を用いて、地盤ネット地理院・標高データ(2.5万分の1)と地図データ(ゼンリンストアー)・国土交通省国土計測等） ※4 産業技術総合研究所 1/20万シームレス地質図 ※5 国土交通省の国土数値情報（用途地域データ）より、クリップした地点の用途地域を示します。 ※7 国土交通省の地価公示・都道府県地価調査より近隣の公示地点の標準地番号、対象地から公示地点までの距離、公示地点の用途地域を示します。

「地盤改良工事比率」は、地盤ネットによる地盤解析結果で、対象地より1km圏内における地盤改良必要比率を示したものです。「揺れリスク」「地震による揺れやすさ」「液状化リスク」は、土地条件図または土地保全図・自然環境条件図を元に、国土地理院の「動的災害危険性評価手法」等を参考にした技術基準で評価しています。このため、評価の精度は参考となる土地データの精度に依存し、必ずしも実際の情報と一致しないことがあります。この評価方法では、土地条件図で「水面（自然堤含む）」、「開発地域」、「造成工事等」と区分されている地域は、リスクが最も高い値に区分されます。また、地盤の高さ・いやすさ等を反映させ、人工的改変とは考慮されておりません。また、レポートは現情報による簡易的な評価ですので、対象地のより正確な地盤リスク評価は、専門家による検討ください。当社はオンラインでご利用になったことにより生じるいかなる損害についても、一切責任を負いません。この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（土地条件）を使用。（承認番号 平元情使、第515-14号）

地盤安心住宅® PLUS で地盤リスクを事前に確認が可能！

- step1 事前情報の見える化 — 土地購入の思わぬリスクを防ぐ！
- step2 調査解析の見える化 — 調査・分析結果に基づいて最適な基礎仕様・軟弱地盤対策を提案
- step3 改良工事現場の見える化 — 第三者による立会いから地盤改良工事内容の妥当性をチェック
- step4 補償内容の見える化 — 一生涯にわたって更新できる安心の長期補償制度を提供

詳しくはWEBで … jibannet.co.jp

2015.Jibannet Co., Ltd. Powered by Jiban Anshin Map

その他にも、液状化の可能性マップ、地震動予測、活断層マップ、浸水想定区域マップ、土砂災害危険個所マップ、標高マップなどなど、さらに詳しい分析が可能です。